

| 科目コード                                  | ナンバリング          | 単位数 | 学期 | 授業区分  | 科目区分                                   | 履修区分                                   | 配当学年                                   |
|--|-----------------|-----|----|---|--|--|--|
| 220022                                 | X-01-A-1-220022 |     |    |   |  |  |  |
| 授業科目                                   | 担当教員            |     |    |   |  |  |  |
| 国際交流ファシリテーター<br>1／国際交流ファシリテー<br>ター演習 1 | 佐々木 寛、山田<br>裕史  | 2   | 後期 | 【1・2年次生】国際学部国際文化学科<br>【3年次生以上】国際学部国際文化学科<br>【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース<br>【1・3年次生】経営情報学部経営学科<br>【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科<br>【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース<br>【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース | 基礎<br>基礎<br>基礎<br>基礎<br>基礎<br>基礎<br>基礎 | 選択<br>選択<br>選択<br>選択<br>選択<br>選択<br>選択 | 1年<br>1年<br>1年<br>1年<br>1年<br>1年<br>1年 |

#### 授業目的

21世紀に要求されるのは、他者と共に、臨機応変に創造的な活動を展開することができる、総合的な人間力です。単に前例を倣い、知識や指示を一方的に受容・伝達するだけの生き方や学習方法は、あらゆる分野で行き詰まりをみせています。この授業では、「ワークショップ」と「ファシリテーション」等の新しい手法を用い、参加者が実際に身体を動かしながら、自ら主体的に学ぶことを第一義とします。

この授業を経験することで、さまざまな「他者」のなかで、さまざまな議題やテーマを柔軟に「コーディネート」する能力や、民主的なリーダーシップを発揮する真の知的・社会的能力を養うことができます。この授業では、たとえば「世界の現実」「世界の不平等」「異文化理解」などの3つの大きなテーマに即して、国際理解を深めます。

この授業の合格者は、新潟県国際交流協会から「国際交流ファシリテーター」の委嘱状を授与され、同年度の9月と2月に県内の小・中学校、高校で国際理解を目的としたワークショップを実践することになります。

また、ディプロマポリシーとの関連では、本演習は国境を越えた個別具体的な問題への認識を深める国際教養の体得に資するものと位置づけられます。

#### 各回の授業内容

|     |  |      |  |
|-----|--|------|--|
| 第1回 | 【授】 ガイダンス：「国際交流ファシリテーター」概要説明、年間スケジュール、自己紹介シート配布<br>【前・後】 【必要な時間：4時間】授業中に指示する国際理解教育やワークショップに関する書籍を精読すること。 | 第9回  | 【授】 招聘講師によるワークショップ①、②のふりかえり<br>【前・後】 【必要な時間：4時間】グループごとに模擬ワークショップの準備を進めること。                               |
| 第2回 | 【授】 「国際理解教育」、「ワークショップ」とは<br>【前・後】 【必要な時間：4時間】授業中に指示する国際理解教育やワークショップに関する書籍を精読すること。                        | 第10回 | 【授】 招聘講師によるワークショップ③<br>【前・後】 【必要な時間：4時間】グループごとに模擬ワークショップの準備を進めること、または、グループごとに模擬ワークショップのふりかえりを行うこと。       |
| 第3回 | 【授】 学内講師による講義：①「世界の現実」、②「世界の不平等」、③「多文化共生」<br>【前・後】 【必要な時間：4時間】授業中に指示する国際理解教育やワークショップに関する書籍を精読すること。       | 第11回 | 【授】 招聘講師によるワークショップ③のふりかえり<br>【前・後】 【必要な時間：4時間】グループごとに模擬ワークショップの準備を進めること、または、グループごとに模擬ワークショップのふりかえりを行うこと。 |
| 第4回 | 【授】 チーム分け、チームでのアイスブレイク<br>【前・後】 【必要な時間：4時間】授業中に指示する国際理解教育やワークショップに関する書籍を精読すること。                          | 第12回 | 【授】 学生による模擬ワークショップ中間発表①<br>【前・後】 【必要な時間：4時間】グループごとに模擬ワークショップの準備を進めること、または、グループごとに模擬ワークショップのふりかえりを行うこと。   |
| 第5回 | 【授】 プрезентーション①『ワークショップ』（中野、2001年）<br>【前・後】 【必要な時間：4時間】授業中に指示する国際理解教育やワークショップに関する書籍を精読すること。             | 第13回 | 【授】 学生による模擬ワークショップ中間発表②<br>【前・後】 【必要な時間：4時間】グループごとに模擬ワークショップの準備を進めること、または、グループごとに模擬ワークショップのふりかえりを行うこと。   |
| 第6回 | 【授】 プрезентーション②『これからはじめるワークショップ』（堀、2019年）<br>【前・後】 【必要な時間：4時間】授業中に指示する国際理解教育やワークショップに関する書籍を精読すること。      | 第14回 | 【授】 学生による模擬ワークショップ①<br>【前・後】 【必要な時間：4時間】グループごとに模擬ワークショップの準備を進めること、または、グループごとに模擬ワークショップのふりかえりを行うこと。       |
| 第7回 | 【授】 招聘講師によるワークショップ①<br>【前・後】 【必要な時間：4時間】グループごとに模擬ワークショップの準備を進めること。                                       | 第15回 | 【授】 学生による模擬ワークショップ②<br>【前・後】 【必要な時間：4時間】グループごとに模擬ワークショップの準備を進めること、または、グループごとに模擬ワークショップのふりかえりを行うこと。       |
| 第8回 | 【授】 招聘講師によるワークショップ②<br>【前・後】 【必要な時間：4時間】グループごとに模擬ワークショップの準備を進めること。                                       | 第16回 |  |

#### 成績評価方法

出席回数と授業参加態度（30%）、および参加者が発表する模擬ワークショップ（70%）を合わせて総合的に評価します。

模擬ワークショップに対するフィードバックとして、評価シートにもとづく講評を行います。

#### 教科書・参考書

- 青木将幸『リラックスと集中を一瞬でつくるアイスブレイクベスト50』ほんの森出版、2013年
- 石川一喜・小貫仁編『教育ファシリテーターになろう！：グローバルな学びをめざす参加型授業』弘文堂、2016年
- 中野民夫『ワークショップ：新しい学びと創造の場』岩波新書、2001年
- 堀公俊『これからはじめるワークショップ』日本経済新聞出版社、2019年
- 堀公俊『ファシリテーション入門（第2版）』日本経済新聞出版社、2018年
- ロバート・チェンバース『参加型ワークショップ入門』明石書店、2004年
- その他の書籍は授業中に紹介します。

#### 受講に当たっての留意事項

国際交流ファシリテーターを目指す学生は必ず履修してください（必修科目）。本科目は、単に授業に出席するだけでなく、その準備のために多くのエネルギーと時間を要します。地域社会に成果を示すため、本学を代表する覚悟と自覚が必要です。

|                    |   |                                     |
|--------------------|---|-------------------------------------|
| 実務経験のある教員による授業科目有無 | 実務経験と授業科目との関連性  | アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施 |
| ○                  | さまざまな場所でファシリテーションを実践している教員が、理論と実践の両面からファシリテーションの技法を紹介します。 | ○                                   |

#### 学習到達目標

基本的に、自分ひとりでも国際理解に関するワークショップを運営展開できる能力を身につけること。

JABEE

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習